

第 5 回 全国在宅医療会議 W G	参考 資料
平成 2 9 年 1 2 月 8 日	2

### 第 3 回全国在宅医療会議における主な意見

(中長期目標の設定について)

- 小児在宅という切り口で、重点分野の課題が検討できるような窓口をつくっていただきたい。
- 中期、長期目標を決めていくという作業を、ワーキングの中で各団体のいわゆる役割というものを共有しながらやっていく。その際、各団体のヒアリングという作業もワーキングの中でやっていただくと、目標設定がしやすいのではないか。
- 計画をたてる際、単年度で事業を企画はするが、大体 3 年間計画で、事業企画を立てているというのが通常やっていることである。

(普及啓発について)

- 今現在は、各市区町村、あるいは都道府県でどのような啓発されているかということだけの情報しかない。在宅医療普及のために本当に必要な啓発って何なのかとか、どのようなことがあればうまくいくのかとかいう議論がまだ十分できていない。
- 在宅医療が、こういう医療ですよ、あるいは在宅ケアというのはこういうものですよという啓発だけでいいのか。あるいは、そもそもセカンドライフをどう生きるかというところから国民みんなで考えていただかなければいけない。そういう深いところの話なのか、その辺の議論もまだできていない。
- 在宅医療を選択する場合、病院で診断されて治療して、どのタイミングで在宅医療をしたらいいのかというのを、医療従事者から提案していただく場合が多い。在宅医療について、もう少し病院の医療従事者が詳しく知っていただいて理解が深まっていただくと話がしやすい。

(在宅医療のエビデンスについて)

- 在宅医療は多職種の場合であり、多職種が在宅医療の概念をまず共有しているかということが非常に入り口の部分で重要なことであって、今後、この多職種が在宅医療の概念を共有して、さらに在宅医療の正しい情報を国民に提供できるようにしていかなければいけない。
  
- 在宅医療の場合、医療モデルの病院の治療を目的とする医療とは違い、その目的は、生活の質を向上するということである。そういう観点からの研究構築というのも大切ではないか。
  
- そもそもエビデンスがどういうことなのかということもまだ整理ができていない。例えば、在宅医療のエビデンスの問題なのか、さまざまな臨床課題、複雑な病態を持っている方の医療のエビデンスがないのか、在宅という場の問題なのか、そういうことがきちんと整理されてない。